

◆ 世田谷都税事務所長賞 ◆

「あしたをつくる税金」

世田谷区立深沢中学校 3年 柴宮 航

僕たち中学生が身近に意識する税として消費税がある。今までは、納税に対しての「払わなければいけない」という認識から、「税なんてかけずにそのままの値段で売れば簡単じゃないか」などと考えていた。何のための納税なのか、それをよく理解していなかったのだ。しかし、税金について色々と調べていくうちに、税金は、僕たちの生活に必要な不可欠なものであると感じてきた。

僕たち国民が納める税金は、社会資本の整備や公共サービスの提供に使われている。これらは豊かな国民生活の土台となるものだ。蛇口をひねったら出てくる水道水、いつも歩いている道路、いつも通っている学校、勉強に必要な教科書、怪我などしたらすぐに診てもらえる病院。日々当たり前のように安心して過ごせている毎日も、税金がなければ成り立たないものなのだ。

この事実を知って僕は、税金は「払わなければならないもの」ではなく、「僕たち自身の生活を豊かにするもの」という認識が正しいのだと感じた。

日本はよく、治安が良い国だと言われる。確かにその通りだと思うが、その原因は何だろうか。法律が関係しているのは明らかだが、そのほかにも原因があるのではと思い、税率との関係を調べてみた。すると、日本のほかにもアイスランドやデンマークなど治安の良い北欧の国々の税率の高さは、世界的に見て上位にあることがわかった。つまり、税率が高い国は比較的治安が良い傾向があるのだ。このことからわかる通り、納税は僕たちの暮らしを安心して豊かなものにするために欠かせないものなのだ。

今、少子高齢化問題の影響で、納税をする一人一人の負担が大きくなりつつある。納税をする人の割合よりも、福祉サービスなどを受ける人の割合が増えているのだ。これから先、増税も考えられるだろう。もしそうなれば、不満を抱く国民も数多く出てくるのではないかと思う。しかし、納税を「今、政府に払わなければならないもの」として考えるのではなく「未来の、自分たちの豊かな生活に対して払うもの」として考えてみれば納税に対しての印象が大きく変わるのではないだろうか。

納税は未来をつくる架け橋のようなものだ。今の僕たちを、未来のより良い社会へと繋いでくれる。僕たちは、納税の意義をよく理解し、未来への架け橋を地道に創り上げていくことが大切だと思う。